

魚類防疫に関する技術指導と研究

(魚病対策指導事業)

清川智之

1. 研究目的

種苗生産・中間育成・養殖時に発生する魚病を予防し、被害を最小限に抑えるため、水産生物の疾病診断、防疫指導を通して、飼育担当者の防疫技術の向上を図り、魚類養殖増養殖を推進する。

2. 研究方法

飼育担当者からの持ち込み、および巡回指導時に入手した標本を検査に使用した。

3. 研究結果

本年度の疾病検査結果は下表の通りであった。

	月 日	魚 種	場 所	疾病名・症状・指導内容等
平成 14年	4月23日	アカアマダイ	平 田 市 小 伊 津	不明(赤潮(ノクチルカ)の影響と思われる)だが、飼育水の溶存酸素の低下が原因と推察された。
	6月26日	オニオコゼ	鹿 島 町 恵 曇	不明(ビブリオ属細菌が関与) 日齢4~8日目に大量斃死し、9水槽が全滅した。ビブリオ属細菌の関与が疑われた。
	7月3日	ヒラメ	浜 田 市	ネオベネデニア症 粘液を掻きとって検鏡したところ、多量の本虫を確認した。マリンサワーで薬浴したところ、急速に症状が改善し、治癒した。
	7月29日	サザエ	大 田 市	不明 潜水調査を行なったところ、大量のサザエの殻や衰弱したサザエが確認された。
	9月11日	ムシガレイ	大 田 市 他	不明 大田市や島根半島で漁獲されたムシガレイに筋肉内の出血、白化が認められた。
	9月17日	オニオコゼ	浜 田 市	糸状菌症・滑走細菌症 体表には多量の糸状菌が確認されたので、本菌が死亡要因と判断された。
	9月 19・27日	メガイアワビ	鹿 島 町 恵 曇	不明 TCBS培地を用いて細菌分離を行なったが、細菌は分離されなかった。
	9月26日	マダイ	美 保 関 町 笠 浦	滑走細菌症 時化が誘因となって大量斃死が起こったと考えられた。
	10月15日	キジハタ	浜 田 市	ベネデニア症 体表にハダムシの寄生が確認されたことから、これを除去し、症状が改善されなかった場合に再度検査を行なうよう指導した。
	11月1日	キジハタ	浜 田 市 大田市和江	ウイルス性神経壊死症(VNN) 日裁協上浦事業場に検査を依頼した。結果、瀕死魚、健康魚とも高率に本ウイルスが検出され、ウイルス性神経壊死症と診断された。